

2学期を終えて

「2学期は長い」夏休みの終わりにいつも思います。今では「もう冬休みが来てしまった」そんな感覚です。子どもたちはどうなのでしょう。長い時間を同じメンバーでほぼ同じ場所で過ごしてきました。学年と学級と時間割という制度がそうさせています。人が集まれば何かが起こります。過去を振り返れば学級担任をしていた時、トラブルのなかった年はありませんでした。多田小の子どもたちもそれぞれ何らかのトラブルを経験し、助けてもらったり助けたり、いやな思いをさせたりさせられたりしたはずです。そんなトラブルをどのように解決していくか、これが学校で生活する大切な学びではないでしょうか。『いやなことはいや』と言える人であってほしい、言われた時には『あっそうか。ごめん。』と素直に言える人であってほしい。と思うと同時に、私はできているのかと問い直す必要性にも気づかされます。自分の気持ちと同じ重さで相手の気持ちを知ろうとすることがその手掛かりになる気がします。

『遊びで』子どもたちに話を聞きとよく聞くフレーズです。そこで問います。「遊びってどういうこと？」すると『楽しかったから』さらに問います。「誰が？」『・・・。』もう気が付いているのでしょう。遊びに重要なのは相手の気持ちにも気を配ることだと。自分が楽しいのは自覚しやすい。でも相手の気持ちは、表情から読み取ろうとしても読み間違えることが往々にして起きてしまいます。そこを補うのが相手の言葉を聞くことではないでしょうか。聞いて返してまた聞いての繰り返しです。この繰り返しによって少しずつ理解しあい、ほどよい距離を理解していく。そんな学びを大事にしたいのです。

しかし、気になることもあります。『先生。○○していいですか？』と聞かれることがちょくちょくあります。ちゃんとしているように聞こえるのですが、判断を先生に委ねているように感じます。でも、そんな発言をさせているのは、我々大人の側にあるとも言えます。「担任の先生に聞いてごらん。」「お家の人に聞きなさい。」ちょっと子どもとの関わり方を変えなければならない。「あなたはどうしたいの？」自律です。

『先生。▲▲なので○○していいですか？』がほしいのです。自分で判断し、したいことを主張する。だとすれば我々大人は、「どうしたいの？」「なんで？」と問いかけ、その言葉に耳を傾けなければなりません。これがとっても難しい、でも必要な姿勢だと考えます。生活の中でのコミュニケーション。「わかったか！」「はい！』ではいけないのです。私とあなたは別人であり、理解し合おうとしなければ理解できない関係です。子どもと大人も同じです。相手の声を聞ける人になりたい、そんな人になってほしい。そんなことを思いめぐらす2学期最後の日です。

今学期もいろいろとありがとうございました。あっという間の2学期でした。3学期もよろしく願います。良い年をお迎えください。

今後の予定について

12月23日現在 各学年の予定は学年だよりをご覧ください

校長室にて

休み時間になると校長室へ子どもたちが遊びにやってきます。毎日来る子、時々来る子、様々です。いろんな話をして帰ります。「昨日パパがな・・・。」「○○先生がな・・・。」「おかあさんがな・・・。」「ばあちゃんが・・・。」それぞれ自分にとって重要な大人のことを語ります。内容については、守秘義務のためお伝えできませんが、赤裸々にお話してくれます。どの子の話も大好きな人のお話です。話したくて話したくて仕方ありません。と同時に時計も気にしています。「あと何分でチャイムなる？」時間割が身体化され、次にしなければならないことを意識しつつリラックスした時間を送っています。話したい、聞いてほしいことがあればいつでも来てください。なくても来ててください。

右の写真は校長室に常備してある人体模型で遊ぶ5年生です。1年生も人体模型の分解と組み立てを上手にやっています。教室だけでなく、どこかでほっとできればいいと思って開放しています。今日も「しつれいします。」「しつれいしました。」の音が響きます。

